

韓国農林畜産食品部プレスリリース 2020年2月11日付

## 野生いのししにおける ASF 拡散防止のため、春川～麟蹄の広域フェンス新設・農家単位防疫措置強化

<http://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE8JTJGYmJzJTJGbfWFmcmElMkY2OCUyRjMyMjY4MyUyRmFydGNsVmllldy5kbyUzRmJic0NsU2VxJTN EJTI2cmdzRW5kZGVtdHllM0QlMjZiYnNPcGVuV3JkU2VxJTNEJTI2cGFzc3dvcmQlM0QlMjZzcmNoQ29sdW1uJTNEJTI2cGFnZSUzRDElMjZyZ3NCZ25kZVN0ciUzRCUyNnJvdUzRDEwJTI2aXNwaWV3TWluZSUzRGZhbHNIJTI2c3JjaFdyZCUzRCUyNg%3D%3D>

□ASF 中央事故収拾本部(本部長キム・ヒョンス)は江原道(カンウォンド)華川郡(ファチョンゴン)看東面(カンドンミョン)広域フェンス外で捕獲された野生いのししで ASF ウイルスが検出されたと 2月10日明らかにした。

○今回 ASF 陽性となった個体は、2月7日華川郡看東面でハンターが捕獲したものである。華川郡と国立環境科学院は野生いのしし ASF 標準行動指針により試料を採取して現場消毒措置を実施した。

□中央事故収拾本部は、広域フェンス外で感染した野生いのししが発見された状況を重く見て、野生いのししに対する追加的管理方案を発表した。

○先に野生いのししの南下を遮断するために春川(チュンチョン)-昭陽江(ソヤンガン)-麟蹄郡(インジェ)間を連結する3段階広域フェンスを追加設置する計画だ。

-華川から楊口(ヤング)への野生いのししの東進を遮断するため、3段階広域フェンスと南方限界線を南北に連結する終端フェンスも設置する。

-また、既に設置された1、2段階広域フェンス内を区画化する追加フェンスを設置し、いのしし移動を遮断する効果を高める計画。

-地形地物を利用した既存広域フェンスは地形地物を迂回する方式でフェンスを追加設置する方案も検討する。

○また、破虜湖(パロホ)南側一帯を含む広域フェンス内外で野生いのししの死体調査を広範囲に実施し、国境地域内感染リスクなどを考慮し、地域別に差別化されたイノシシ捕獲を推進する。

-今回の発生地点である華川・楊口一帯は、死体集中捜索を通じて感染範囲の確認が取れるまで銃器捕獲を一時的に留保し、捕獲罠を集中設置する。

-2次フェンス設置が完了した坡州(パジュ)、漣川(ヨンチョン)、鉄原(チョルウォン)2次フェンス内にはいのしし除去班を配置し、いのしし捕獲を推進する。

□華川郡（ファチョングン）と京畿（キョンギ）、江原（カンウォン）北部に対する農家単位防疫措置も強化する。

○華川郡（ファチョングン）はいのしし忌避剤を従来の2倍以上置くようにして、2週間おきに設置する。

-防疫対10km内養豚農場3戸は直ちに移動制限措置と精密検査を実施した。

-農場進入路と入口、周辺などに生石灰を週1回以上追加で散布し、週1回農場周辺野生動物糞便に対する環境試料検査などを実施している。

○京畿、江原北部の339戸すべての養豚農場を対象にした防疫措置を持続実施して、管理実態を集中点検する。

-華川郡3戸を含む、野生いのしし発生地点の防疫地帯10km内の養豚農場87戸は、移動制限措置中であり、精密検査後に指定屠殺場への出荷を許可し、糞尿は館内処理場だけで処理するようにしている。

-また、予察と集中消毒など防疫措置を毎日実施している。

-ハンドン協会などと協力して手洗剤(1,356個)を配付し、農家防疫規則遵守の案内文を発送(KAHIS)、リーフレット配付(10万部)等、農場単位防疫規則遵守に関する広報も持続実施している。

-農食品部は関係官を2月3日から現場に直接派遣し、フェンス、忌避剤設置、生石灰塗布など遮断防疫管理実態を集中点検している。

□中央事故収拾本部は野生いのしし発見時、地方自治体などに迅速に申告し、農場で疑い症状の発見時には、直ちに家畜防疫機関に申告するよう呼びかけた。

以上